

鈴木由紀生所員を送る

斎藤 義 則 (当研究所長)

鈴木由紀生先生は、心理学特に交通心理学を専門分野として、本研究所においても設立当初から多大の貢献をなされました。学会においては、日本交通心理学会運営委員、日本交通科学協議会評議員等の要職も勤められました。

本研究所における総合研究の重要な初期の成果の一つである『鹿嶋開発』(1974, 古今書院)で「自動車交通とその問題点」を執筆されている。交通事故の発生状況を実証的に調査分析され、全国や茨城県の交通違反・事故件数に比較して鹿島のような開発地域において違反・事故発生割合が極めて高いことを指摘されています。

先生の重要な問題関心の一つとして、研究室内における心理学研究をこえて、地域開発が住民意識や心理にどのような影響を与え、それが交通事故の発生とどのような関係があるかを解明することにあつたと思われまふ。地域社会の置かれている状況と心理学を結ぶ総合的な研究の視点と広がりをお持ちの希有の研究者のお一人であられました。

その後、「飲酒運転に対するドライバーの意識」(1978, 茨城大学地域総合研究所年報11号)、「飲酒運転の心的メカニズムに関する考察」(1989, 交通心理学研究)、「高齢歩行者事故の事故研究」(1996, 茨城大学人文学部紀要)等と研究を展開されています。我が国が高齢社会に至り、バリアフリー、ユニバーサルデザインの重要性が指摘されているなかで、先生の研究テーマはますます重要性が高まっています。

茨城県における交通事故の発生件数は全国に比較して現在も極めて高く、先生の研究に対する期待がますます高まっている時期に退官されることは、大変残念なことではあります。本研究所においては先生の問題意識を引き継ぎ、地域社会における交通問題と交通計画をより総合的に研究するよう努める所存であります。

また先生は、学内行政においても人文学部長を勤められ、大学の独立行政法人化に備えた学部の将来構想の立案にご尽力なされました。

退官後の先生のますますのご研究の進展とご健勝を祈念しつつ、先生が本研究所に残されたご研究を引き継いでまいりますこととお誓いし、送る言葉に代えさせていただきます。